

群 教 七	G12 - 01
	平16.218集

思いや願いを生かし

学びを深める生活科の指導

— 活動の視点を示した「学び方カード」の活用を通して —

長期研修員 平井 裕美

《研究の概要》

本研究は、活動の視点を示した「学び方カード」を活用することによって、思いや願いを生かし学びを深めようとしたものである。具体的には、活動の視点を手がかりとして活動の内容や方法を考え、思いや願いを具体化し問題をもつ。追究から生まれた気付きや思いを「学び方カード」で確かめ、新たな活動の内容や方法を考える。これらの取組や気付きを「学び方カード」を基に表現し、対象への見方や考え方を深める指導の工夫を行った。

【キーワード：生活科 思い 学びの深まり 活動の視点】

I 主題設定の理由

これからの社会を担う児童は、社会の激しい変化に主体的に対応できるよう、自ら学び自ら考えるなどの生きる力を育成していくことが重要となる。

自立への基礎を養うことを究極的な目標とする生活科においても、思いや願いをはぐくみ、児童が切実な問題意識をもって対象へ働きかけていく問題解決的な学習を展開し、自己学習力を育てていくことが大切である。思いや願いは、個々の児童の生活経験や見方、考え方から生じたものであり、児童にとって価値のある活動に発展していく可能性が含まれている。それらの実現に向けて、自分なりの見通しや活動への方向性を見付けていくことで、児童は、明確なこだわりや問題をもって主体的に対象へ働きかけ、学びを深めていくことができるようになる。

指導者自身のこれまでの生活科の授業を振り返ると、具体的な活動や体験を設定することによって児童は興味をもって取り組むものの、さらに思いや願いを膨らませ工夫して対象に働きかけていくということが難しかった。そのため、対象とのかかわり方や、対象への見方や考え方を深めていくことが十分でなかったという反省が残る。それは、児童の思いや願いを具体化するための活動の視点が示せず活動への見通しをもたせることが弱く、児童が自分にとっての問題やこだわりをもって対象に働きかけていくことができなかつたためと考えられる。

そこで、本研究では、活動の視点を示した「学び方カード」を活用し、児童の思いや願いを具体化したり気付きを確かめたりしながら問題意識を高め、学びを深めていく契機となる場面に焦点をあてて研究を進めることにした。児童が「どんなことができるか、どんなことが必要か」を考えていく際に、手がかりとなる視点が活動の視点である。「学び方カード」は、選んだその視点を基にして活動の内容や方法を考え、具体化していくものである。

まず、問題をもつ場面では、思いや願いを具体化できるよう活動の内容や方法を明確にし、切実な問題をもてるようにしていく。活動を見つめ深める場面では、追究の中から生まれた気付きや「もっと知りたい、やってみたい」という思いを次の活動へつなげ、新たな問題解決に向けて工夫して取り組めるようにしたい。また、活動を振り返る場面では、思いや願いを実現してきた過程を振り返り、対象への見方や考え方を深めることができるようにしたいと考えた。

思いや願いから自分のこだわりや問題をもって追究へと学びを深めていくことで、児童は「できた」という喜びや成就感を実感することができ、生活の場においても新たな思いや願いをもって主体的に対象へ働きかけていくことができるようになることを考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

生活科の指導において、活動の内容や方法を明らかにするために、活動の視点を示した「学び方カード」を活用することによって、思いや願いを生かし学びを深めることができる、ということを実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

- 1 問題をもつ場面において、対象との出会いからもった思いや願いを具体化しよう、活動の視点を示した「学び方カード」を使って、活動の内容や方法を考えることによって、主体的に解決するための問題をもつことができるであろう。
- 2 活動を見つめ深める場面において、新たな問題をもてるよう、活動の視点を示した「学び方カード」を使って、追究の中から生まれた気づきや思いを確かめ、次の活動の内容や方法を考えることによって、工夫して活動に取り組んでいくことができるであろう。
- 3 活動を振り返る場面において、思いや願いを実現できたか振り返られるよう、活動の視点を示した「学び方カード」を基にして、これまでの取組や気づきを表現することによって、対象への見方や考え方を深めることができるであろう。

IV 研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 生活科において学びを深めるとは

初めは漠然と感じ、考え、気付いていたものの中から、「自分にとってのこだわりや問題」をもち、それを解決するために自分なりの答えや新たな問題を見いだしながら主体的に対象に働きかけ、対象に対する見方や考え方を深め変容させていく姿を、学びを深める姿ととらえた。

本研究では、その子なりのこだわりや問題につながる思いや願いを生かして学びを深めていく過程を『生活科の授業方法』（嶋野道弘編著ぎょうせい）を参考に、①出会い②イメージ化③試しの体験④情報加工（体験の見直し、修正）⑤本格的な体験⑥体験や成長の振り返り⑦新たな学びへの発展という、児童の意識の流れを大切に七つの過程でとらえた（図1）。

出会いや体験の場を工夫して児童が楽しさを実感できるようにするとともに、「イメージ化」

「情報加工」「体験や成長の振り返り」の過程で活動の視点を示した「学び方カード」を活用して児童の内に芽生えた思いや願い、気づきを見取り、児童が学びを深めていく契機とする。

(2) 活動の視点とは

活動の視点とは、学習活動をより豊かにしていこうと考えられる見方・考え方・行動を具体的な形で表したものである。出会いや体験を通して「やってみたい」「やらなければ」と思ったことを活動の視点からさらに考え、内容や方法を具体的にしていくものである。選択肢の中から自分に合ったものを見つけ、具体的な場面をイメージ化していくことによって自分の

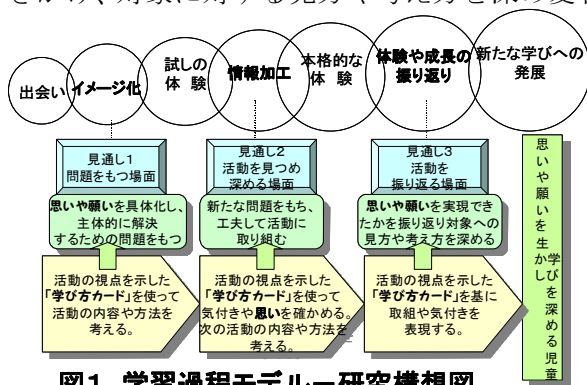


図1 学習過程モデル—研究構想図

こだわりを形にしたり、発想を広げて様々な活動を展開していけると考えられる。また、そうした中で、学び方の基礎を少しずつ身に付けていくことができると考える。

資料1 学びの観点と「活動の視点」

	学びの観点	子どもの姿	活動の視点	ヒント作り
関心 意欲 態度	【やってみよう】	身の回りのもの・こと・人とのかかわりに関心をもつ。	進んでやろう じっくりやろう 仲良くやろう など	作る・遊ぶ・育てる・探すなど活動の紹介 人とのかかわり方
思考 表現	【考えよう】 ----- 【表そう】	活動の内容や方法を自分なりに考えたり工夫したりしながら取り組む。 気付いたことや楽しかったことなどを工夫してまとめたり表現したりする。	違いや同じ所は？ 他には？ なぜ？ どうにやって？ なんのために？ 順番は？ 必要なものは？ ----- など 集めよう 記録しよう まとめよう（組み合わせよう・並べよう） 話し合おう など	大きい小さい、長い短い、重い軽い、多い少ないなどの比べ方 目的・理由・使い道・使い方を考える窓口 クイズ・新聞・劇・絵本・歌・アルバムなどのまとめ方、記録の仕方や集め方などの紹介 伝える時のポイント
気付き	【見つけよう】	五感をつかって自分なりの「発見」を見つける。	色・形・音・手触り・におい・数を見つけよう ひみつやおすすめを見つけよう おもしろい！びっくり！を見つけよう ふしぎを見つけよう など	見てくる、聞いてくる、触ってくるものなどの事例 どこを見ると、どこから見るとわかるか着目したい点

資料1に挙げた活動の視点を基本とし、単元の内容や学習過程における場面、児童の実態に応じて、指導者が児童に提示する視点を選ぶ。活動の広がりや深まりを考えて、資料2のように提示する。授業では児童が興味をもって活用できるように「たんていテキスト」と呼び、ヒントカードとセットにして個々の児童が持てるようにしておく（詳細は資料編参照）。

(3) 「学び方カード」とは

学び方カードとは、活動の視点に基づいて思いや願いを具体化したり、活動の様子を振り返って気付きを確かめたり新たな問題を作ったりする学習カードである（資料3）。学び方カードを蓄積していくことで、個々の児童の学習活動の様子やその変容を知る手がかりとする。

資料3 学び方カード（授業では**チャレンジカード**と呼ぶ） 例【問題をもつ場面】

ねがい	ホップ	ステップ	ジャンプ	もんだい		
やってみよう	すすんでやろう ①活動	じっくりやろう	なかよくやろう	せんげん	よだい	見つけたよ やってみたいよ
考えよう	ちがいは？おなじところは？	どうにやって？	なんでだろう？	1		
あらわそう	あつめよう	きろくしよう ③活動	話し合おう	2		
見つけよう	色・形・音・手ざわり・においを見つけよう	どれくらい？かずを見つけよう	どれくらい？かずを見つけよう ②活動	3		

選んだ活動の視点の欄に付箋紙をはりながら活動の内容や方法を書き出し、計画や準備が進められるようにする。児童の選んだ視点から指導者が思いや願いを把握し、一人一人の問題作りに生かしていくことで問題解決への意欲を高めていくことができると考える。

② 活動を見つめ深める場面での活用

体験や活動の中で感じたことや考えたこと、気付いたことを想起したり自覚したりすることによって、次の活動への手がかりが生まれてくる。学び方カードの記録を基に友達と報告し合い、気付きを確かめることによって、「今度はこうしたい」という新たな思いや願いをもつこ

資料2 「活動の視点」児童用一覧表 例「町となかよし！」

学びの観点	たんていテキスト（1枚目）			ヒントカード（2枚目）	
	ホップ	ステップ	ジャンプ	ホップ	ジャンプ
やってみよう	すすんでやろう	じっくりやろう	なかよくやろう	せつめい見よう 考えよう やろう	友だちとそうだんしてみよう、いっしょにやってみよう。
考えよう	ちがいは？おなじところは？	どうにやって？	なんでだろう？	どうにかのかな。	どうしてある？なんのためにやるのかな。
あらわそう	あつめよう	きろくしよう	話し合おう	絵、図、きろく、音でくしよう	おきやくさんと話してみよう。声の大きさやひょうじょうもだじだま
見つけよう	色・形・音・手ざわり・においを見つけよう	どれくらい？かずを見つけよう	びっくり！ひみつを見つけよう	てみたり てみたり いいよ。	しごこのこつやわさ、町の人のすごいところを見つけよう

→ 広がり・深まり

① 問題をもつ場面での活用

思いや願いを引き出して、実際の活動のイメージをもたせていくことで活動への見通しが立ち、意欲を高めていくことができる。そこで、対象との出会いを通して感じたこと思ったことを学び方カードを使って引き出し、活動のイメージ化を図る。

とができると考える。それを学び方カードを使って書き出しながら次の活動を明確にしていく。対話や問いかけなどの支援を通して、児童は自分なりのこだわりを一層強めたり足りない部分を補足したりしながら工夫して問題に取り組んでいくことができると考える。

③ 活動を振り返る場面での活用

体験や活動の中で、その成果を自分のものとして定着していくためには、体験を意味づけ整理する活動が必要となる。それが表現活動であり、体験の中での様々な思いや気付きを明確にし、関連付け、新たな発見をもたらすものである。そこで、学び方カードの中から周囲の人に伝えたいことを選び出しまとめ、表現する。それらを伝え合い、自他の活動のよさや成長を共有することによって、児童は対象への見方や考え方を深めるとともに、自分の学びに対する成就感を味わい、新たな思いや願いをもって対象へ働きかけていくことができると考える。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、次のような計画で授業実践を行い、検証する。

(1) 授業実践計画

対象	吉井町立入野小学校2年2組 30名	期間	平成16年9月下旬～11月上旬	時	20時間
授業者	長期研修員 平井 裕美	単元	町となかよし！～ 町の人のお手つだいで行こう～		
抽出見A	いろいろなことに興味関心をもって取り組み、着眼点もよいが、気付きの深まりに課題がある。見通しをもって活動したり自分の気付きを確かめたりしながら、対象へのかかわりを深めていけるよう支援したい。				
抽出見B	まじめに取り組めるが、積極的に対象に働きかけ活動を工夫していく面でやや弱い。思いや願いから自分なりのこだわりをもって対象とかかわっていけるよう支援したい。				

(2) 検証計画

検証計画	検証の観点	検証方法
見通し1	問題をもつ場面において、「6月の町探検で知り合った町の人ともっと仲良くなりたい」「仕事のことをよく知り、お手伝いしよう」という思いや願いを具体化できるよう、「チャレンジカード」を使って、活動の内容や方法を考えることは、主体的に解決するための個々の問題をもつのに有効であったか。	活動の視点を示した学び方カード＝「チャレンジカード」・自己評価(活動の視点の選び方や活動への取組を見る。)個人記録シート(出会いの場や話し合いなどにおける言動を分析する。)
見通し2	活動を見つめ深める場面において、新たな問題ももてるよう、「チャレンジカード」を使って、仕事について調べお手伝いする活動の中から生まれた気付きや思いを確かめ、次の活動の内容や方法を考えることは、工夫して活動に取り組んでいくのに有効であったか。	活動の視点を示した学び方カード＝「チャレンジカード」・地域の人や保護者(サポート隊)からのコメント・自己評価(活動の視点の選び方や活動への取組、気付きの変化を見る。)個人記録シート(話し合いや体験活動などにおける言動を分析する。)
見通し3	活動を振り返る場面において、思いや願いを実現できたか振り返られるよう、「チャレンジカード」を基にして、これまでの取組や町の人々の工夫・町のよさへの気付きを表現することは、町の人に対する見方や考え方を深めるのに有効であったか。	活動の視点を示した学び方カード＝「チャレンジカード」・作品・自己評価(対象への見方や考え方の変化を見る。)個人記録シート(振り返り・表現活動などにおける言動を分析する。)

V 研究の展開

1 単元名 町となかよし！ ～ 町の人のお手つだいで行こう ～

2 単元の考察

本単元は、学習指導要領の内容(3)「地域と生活」に基づいて設定した。ここでは、児童が身近な生活圏である地域に出かけ、様々な場所とかかわったり人々と接したりする中で、自分の生活とのかかわりが分かり、地域に親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようになることを目指している。「町の人と仲良くなろう」という思いを膨らませ、「〇〇さんのお手伝い」に向けて自分の問題を明確にし、視点をもって仕事の様子を調べたり、お手伝いの仕方を工夫して取り組んだりできるようにする。町の人々の工夫や努力に気付いたり人々のよさに触れたりしながら、町への見方・考え方を深め、愛着をもつことができると考えた。

3 目標及び評価規準

○町の人の仕事の様子を進んで調べたり実際にお手伝いをしたりすることを通して、自分の住んでいる町のよさや自分の生活とのかかわりなどに気付くとともに、親しみをもって地域の人々と適切に接したり安全に気を付けて活動したりすることができる。

	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
内容のまとめと振り返りの評価規準	地域の人々や様々な場所に親しみをもってかかわり、自分の生活を広げようとしている。	地域の人々や様々な場所と適切にかかわることや、安全に生活することについて考え、それを表現することができる。	自分たちの生活は、地域の人々や様々な場所とかかわりをもっていることが分かっている。
単元の評価規準	町の人のお手伝いやインタビューなどに興味を持ち、地域の人々や様々な場所とのかかわりを広げたり深めたりしようとしている。	お手伝いの仕方や調べる方法を工夫したり、分かったことや親しくなった町のことを表したりすることができる。	町の人たちの仕事の様子や工夫、町のよさや自分たちの生活とのかかわりに気付いている。
学習活動における具体的評価規準	①町の人への情報に関心を持ち、一緒にやってみようという気持ちを見つけてやろうとしている。 ②町の人々の仕事の様子や工夫について意欲的に調べようとしている。 ③あいさつをしたり話しかけたりするなど町の人に進んでかかわろうとしている。 ④地域の人々や様々な場所に親しみをもって接しようとしている。	①お手伝いの仕方や仕事の様子を調べる方法を考えることができる。 ②お手伝いを通して、町の人との接し方や安全な行動の仕方を考えたり、町の人々の仕事について調べたりすることができる。 ③お手伝いしたことや調べたこと、親しくなった人々や好きな場所のことを表現したり伝えたりすることができる。	①自分のかかわった人々や場所の様子に気付いている。 ②身近に感じられる場所や親しくなった人が増えたり、上手にお手伝いできるようになったりすることに気付いている。 ③地域の人々や様々な場所とかかわって生活すると自分たちの生活が楽しく豊かになることに気付いている。

ほかにどんなやり方があるか確認し、付箋紙に書き込む様子が見られた。文に表せない児童には置いた付箋紙を使って「どうしてやってみたいの?」「何をみたいのかな?」などと対話し、個々の思いを引き出せるよう支援した。その結果、28人が3枚以上、2人が2枚、平均で7枚付箋紙に書くことができた。活動の視点から具体的な場面を想像しチャレンジカードに書き出すことによって、漠然とした思いが具体化し活動への見通しをもつことができたと考えられる。

資料4 ヒントを基に考える児童



A児の書いたチャレンジカードが、資料5である。前時には「A店でかごをそろえるお手伝いをする」と話していたが、付箋紙を書き始めると「すすんでおかし(品物)をならべる」を加えて記入した(〇はカードに記載してある活動の視点)。「どうしてお手伝いを増やしたの?」と聞くと、「お店にはいろいろな仕事がありそう、ほかにもできるかもしれない」と答え、「A店にはどんなしごとがあるか」と記入した。また、A店にだけ流れていた店内放送やしいたけ農家からの入荷数に関する疑問も書き入れ、興味の幅が広いA児が、ほかの場所と比べたり関連付けたりしたことを活動の視点から思い起こし、記述することができたと考えられる。

資料5 A児のチャレンジカード

願い → 活動 → 問題

A店	かごをそろえてほしい	かごをそろえてほしい
2	わが家ではおかしをならべよう	A店のしごとは何があるか
3	A店にはなんでもかごをそろえられるか	A店にはなんでもかごをそろえられるか
3	いろいろなものをそろえたおかしをならべよう	いろいろなものをそろえたおかしをならべよう
3	いろいろなものをそろえたおかしをならべよう	いろいろなものをそろえたおかしをならべよう

※丸数字①②③は、A児がベスト3に選んだもの

B児は、しいたけに興味をもち、しいたけ農家のMさんの家へ行くことにした。「においは?手ざわりは?長さは?しいたけパワーのひみつは?」と「しいたけ」について調べたいことや方法を考え、付箋紙をはっていた。そこで、「【やってみよう】」の欄にもはれるといいお手伝いができ

そうだね」と投げかけると、「(すすんで)作る人のまねをしよう」「しいたけをとるときにきょう力しよう」と記入し、お手伝いの仕方へと考えを広げていくことができた。チャレンジカードを使うことで、思いや願いを基に様々な視点から活動を考えることができたと考えられる。

活動の視点を使って活動を考え、付箋紙をたくさん書き出したことから、テーマに沿って付箋紙を選択したりまとめたりして「ベスト3」を作った。それによって、各自の目的がより明確になり、A児は「A店のしごとをいろいろ知ってお手伝いをたくさんする」、B児は「しいたけのことをしらべて上手にとるお手伝いをする」という問題をもつことができた。

以上のことから、対象との出会いからもった思いや願いを具体化するよう、「チャレンジカード」を使って、活動の内容や方法を考えることは、主体的に解決するための個々の問題をもつことに有効であったと考える。

2 活動を見つめ深める場面において、新たな問題がもてるよう、「チャレンジカード」を使って、仕事について調べお手伝いする活動の中から生まれた気づきや思いを確かめ、次の活動の内容や方法を考えることは、工夫して活動に取り組んでいくのに有効であったか

1回目のお手伝い体験で気付いたことをチャレンジカードにまとめ、「仕事のこつ・町の人のごいところ」を中心に、報告し合った。町の人のごいところや努力に目を向けた意見が出され、自分の場所ではどうなのだろうという問いへとつながった。また、喜んでもらえるようにお手伝いできたか、振り返って話し合った。よくできたことのほかにもう少しだったという意見も発表され、自分のかかわっている〇〇さんのことを考えてお手伝いをしようという意識が高まり、改善したい点が挙げられた。このようにチャレンジカードを使って体験してきたことを

整理し、話し合うことによって、次の活動につながる問いや新たな思いをもつことができた。

次に、どんなことをもっと知りたいか、やってみたいか、チャレンジカードを使って書き出した。町の人々の工夫や努力に迫れるような活動の視点やヒントを「たんでいテキスト」に加えたり、サポート隊（保護者）からのコメントを伝えるなど、新たな思いや願いを引き出せるように支援した。その結果、①時・手段・方法など記述が具体的になり、自分なりの表現が見られるようになった。②ホップの欄に書かれたものよりもステップ・ジャンプの欄に書かれたものが増えた。③活動を選びまとめた際に、ベスト1に「～に（工夫して）お手伝いをしたい」ということを挙げた児童が増えた。

資料6 B児のチャレンジカード・表現物

新しいけのつめ		しいけのりた	おいしいにま
<p>1回目</p> <p>ステップ</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p> <p>いたけは作るまねもひょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p>	<p>ジャンプ</p> <p>きょうりょう</p> <p>いたけは作るまねもひょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p>	<p>1回目</p> 	
<p>2回目</p> <p>ステップ</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p>	<p>ジャンプ</p> <p>きょうりょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p> <p>いたけを作るまねもひょう</p>	<p>2回目</p> 	

※丸数字①②③は、B児がベスト3に選んだもの

ていねいにしごとをしよう」と問題を作り、Mさんとのかかわりを深めていくことができた。

A児は、活動を付箋紙に書き出す際に、「お客さんが選びやすいように品物がたくさんあった」→「一ばん多い品物のかずは？」、「お店の入り口に広告がはってあった」→「広告はいつ出すのか聞いてみる」と、これまでの気付きから活動の視点を選び、活動を考えていた。そして、「A店のひみつをいっぱい見つける、めいわくをかけないようにお手伝いをしよう」と、各売場担当者など多くの方に話を伺う様子が見られた。このようにチャレンジカードを使って活動を考えることによって、新たな問題をもって、体験を充実させていくことができた。

以上のことから、新たな問題をもてるよう、「チャレンジカード」を使って、仕事について調べお手伝いする活動の中から生まれた気付きや思いを確かめ、活動の内容や方法を考えることは、工夫して活動に取り組んでいくことに有効であったと考える。

3 活動を振り返る場面において、思いや願いを実現できたか振り返られるよう、「チャレンジカード」を基にして、これまでの取組や町の人々の工夫・町のよさへの気付きを表現することは、町の人に対する見方や考え方を深めるのに有効であったか

2回目のお手伝い体験で気付いたことをチャレンジカードに整理して友達と報告し合い、その中から保護者にも伝えたいことをまとめ、発表することになった。友達同士での報告会では、「お手伝いが上手になった」「あいさつや話ができるようになった」「分かったことをカードにたくさん書けた」という感想が出され、自分たちの成長を振り返り共感し合う様子が見られた。また、「とこやさんはやりがいのある仕事って言っていたよ」という発表から「やりがい」について意見を交わし、「お客さんに喜んでもらいたい」「お客さんの笑顔が見たい」という

町の人たちの仕事に対する姿勢にも触れていくことができた。チャレンジカードの記録を基にそれぞれの場所で分かったことを出し合いまとめていったことによって、自分の行った場所とほかの場所を比べて考え、町の人へと見方を広げていくことができたと考える。

発表会に向けては、チャレンジカードの中から仕事の工夫・町の人のごいところ・お手伝いできたことなど「おすすめ情報」を選び、広告やポスターにまとめた。児童は、チャレンジカードに記述してあることだけではなく、まとめていく中で思い出したことを付け足しながら、自分なりの方法で書き表していた。放課後に友達同士でお手伝い先に伺ったり家の人と一緒に買い物に行ったりして新たに気付いたことを、書き加える児童の姿も見られた。

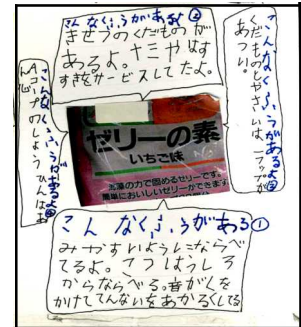
A児は、報告会の後に、「A店はお客さんに『おいしい（喜び）』を届けている」ということを伝えたいと話しており、A店でのやりがいについて考えを深めた様子が見られた。広告には、1回目と2回目にチャレンジカードに記録したことを「こんなくふうがあるよ」というタイトルでつなげてそれぞれの気づきを関連付けたり（資料7）、「ちかくてべんりだよ、A店じるしのしょうひんはあん心、いっしょうけんめいはたらいてるよ」など自分の考えを表すことができた。

B児は、「Mさんは育てる工夫をしていた、優しい人だったよ、町の人と仲良くなって楽しかった」ということを伝えたいと話し、読む人が楽しめるようにタイトルや絵を工夫しながら広告を作る様子が見られた。発表会後に書いたお礼の手紙（資料8）には、「Mさんのおかげでできるようになったこと」や「しいたけをかいにA店に行ったこと」「また行きたいと思ったこと」などが記述されていた。これはMさんへの親しみや町への愛着が深まった姿であり、学びを深めてきた喜びや新たな思いが表れたものととらえることができる。このように、A児は幅広くも

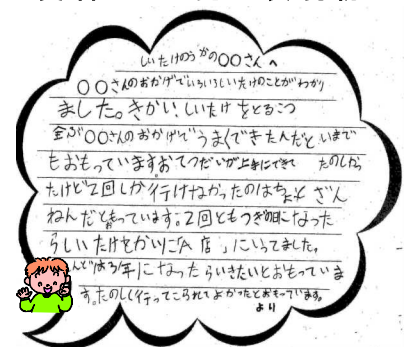
った興味や気づきをチャレンジカードで活動につなげながら、B児は一つの窓口からチャレンジカードで活動を広げながら、対象への見方や考え方を深めていくことができたと考える。

以上のことから、思いや願いを実現できたか振り返られるよう、「チャレンジカード」を基にして、これまでの取組や町の人々の工夫・町のよさへの気づきを表現することによって、対象への見方や考え方を深めることができたと考える。

資料7 A児の表現物



資料8 B児の表現物



Ⅶ 研究のまとめと今後の課題

- 活動の視点を示した「学び方カード」を活用し、児童の思いや願いを具体化したり気づきを確かめたりしながら問題意識を高め、見通しをもって問題解決に取り組むことができるようにしてきた。初めは、活動の視点を手がかりに文にして活動を見つけていく様子であったが、活動が進むにつれて、自分の思いや願いに沿った活動の視点を積極的に選び具体化していく姿が見られた。それによって、自分なりのこだわりや問題をもって主体的に対象に働きかけ、対象に対する見方や考え方を深めていくことができたと考える。
- 効果的に活用できるよう場面や児童の実態に応じて活動の視点やヒントとなる言葉を変え提示してきたが、さらに様々な単元で活用できるように種類を増やす方向で考えていきたい。

<主な参考文献>

- ・ 嶋野 道弘 編著 『生活科の授業方法』 ぎょうせい (2003)